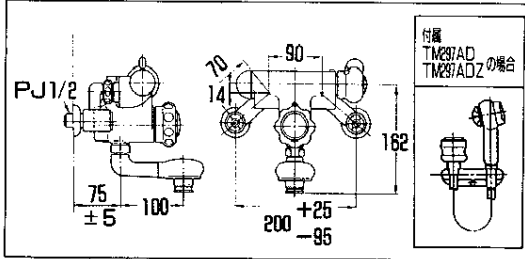


f SERIES “自動みずとめ”サーモスタット混合栓 取付説明書

製品の機能が十分発揮されるように、この取付説明書の内容にそって正しく取付けてください。

完成図

TM297AD TM297A (一般用)
TM297ADZ TM297AZ (寒冷地用)



※品番によっては、図と現品の形状が一部異なることがあります。

使用条件

1. 使用水圧

(1) 瞬間型給湯機と組み合わせる場合

給水圧力 { 最低必要水圧……(下表参照)
最高水圧……………6.0kg f/cm²

器具入口部における最低必要水圧(kg f/cm²)

給湯機タイプと号数		TM297AD TM297ADZ	TM297A TM297AZ
従来タイプ	8号	—	—
	10号	A+1.5	—
	12号	A+2.2	A+1.3
比例制御タイプ	10号	1.0	—
	16号	—	—
	20号	1.0	0.7
	16号	0.8	0.7
	20号	—	—
	24号	0.6	0.5
	32号	0.6	0.5
	16号	0.8	0.5
	24号	0.8	0.5

注) TOTOカスタムシリーズでは、給湯機の温度を60℃にした場合、表中の数値より0.2kg f/cm²多く必要になります。

表中のAは給湯機の最低作動水圧を示します。(比例制御タイプにはこの数値が含まれていません。)

(設定条件)

- 止水栓は全開 ● 給湯配管長さ：5m
- 給湯機温度調節は最高温に設定
- 吐水温度：42℃

a) 従来タイプの場合

- 給湯機が着火する下限の圧力とする。
- 水温の高い(25℃)夏季に着火させることを想定

b) 比例制御タイプの場合

- 水温の低い(5℃)冬季に約8ℓ/minの吐水流量を確保するのに必要な圧力とする。

(2) 貯湯式温水器と組み合わせる場合

給水・給湯圧力 { 最高必要圧力…0.5kg f/cm²
最高圧力……………6.0kg f/cm²

給水圧力は給湯圧力より必ず高くするか、同圧になるようにしてください。

給水圧力が6.0kg f/cm²を超える場合、市販の減圧弁で2.0kg f/cm²程度に減圧してください。

2. 給湯温度は使用する温度より10℃以上高くしてください。

ただし、約70℃以上の温水は出ないようにしています。

3. 給湯に蒸気を使用しないでください。

4. 湯・水を逆配管しないでください。

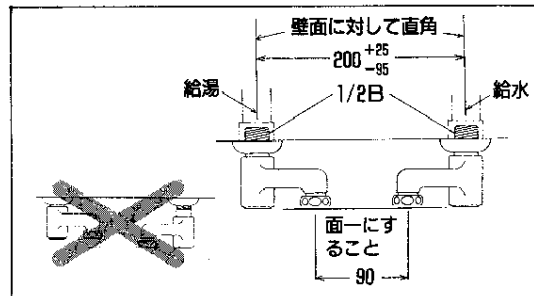
なお、給湯機からの給湯管は抵抗を少なくするため最短距離で配管し、配管には必ず保温材を巻いてください。

器具の取付け

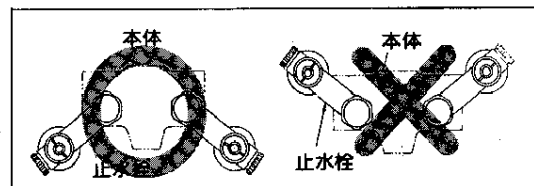
1. 給水管内の清掃

器具を取付ける前に必ず給水管内のごみ、砂などを完全に洗い流してください。

2. 止水栓の取付け



※寒冷地用の場合、止水栓の取付位置が本体よりも上になると水抜きができなくなります。



温度調節

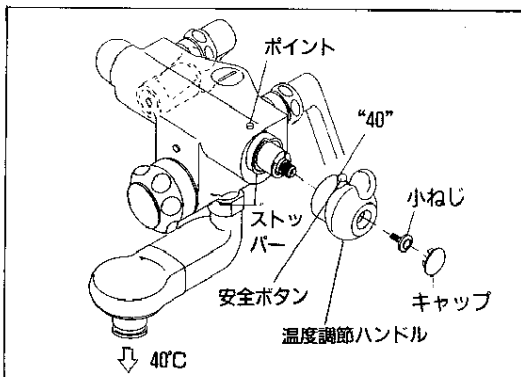
工場で温度調節をしていますが取付現場の圧力状況などによって、ダイヤルどおりの吐水温度にならない場合があります。その場合は次の要領で調節してください。

調節する前に次のことを確かめてください。

- (a) 止水栓は全開になっていること。
- (b) ストレーナのごみづまりはないこと。
- (c) 十分な温度(使用する温度より10℃以上)のお湯がきていること。

● 調節要領

- (1) スパウトより吐水させて温度調節ハンドルのダイヤル目盛に関係なく40℃の湯が出る位置まで温度調節ハンドルを回す。(高温側へ回すときは安全ボタンを押してください。)
- (2) その位置で温度調節ハンドルが回らないように注意してキャップ、小ねじを外しハンドルを抜きとってください。なお、ストッパーが外れたときは分解と点検の項に示す位置に正しくはめてください。
- (3) 温度調節ハンドルの“40”の文字をポイントに合わせてハンドルをはめ小ねじで固定しキャップをはめてください。



最大吐水量の調節

この器具は目盛300(約300L)まで吐水量を設定できますが、浴槽の適量以上に設定ハンドルが回らないように最大吐水量の調節をすることができます。お客様と相談のうえ、「ご愛用のしおり」の最大吐水量の調節のしかた(8ページ)を参照して、調節してください。

ストレーナの掃除

ストレーナがつまると吐水流量が少なくなったり水又は熱湯しかでなくなるなど十分な機能が発揮されなくなります。器具取付後は、必ずストレーナを掃除してください。

また、お客様にもときどき掃除していただくようにご指導願います。

お手入れ

器具がいつまでも美しさを保つように、お客様にお手入れ方法をご指導ください。

1. ふだんは柔らかな布でふき、ときどきシンナーやカーワックスなどをしみこませた布でふくこと。ただし、樹脂部に付着すると光沢を失うので付着しないよう十分注意すること。
2. クレンザーやみがき粉など粗い粒子を含んだ洗剤やナイロンたわしなどは使用しないこと。
3. 酸性洗剤はめっきを侵しますので、使用しないこと。もし、タイルを酸性洗剤で洗った場合は、すぐにタイル及び器具を十分に水洗いすること。

寒冷地用の水抜方法

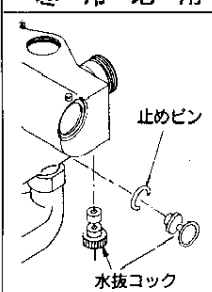
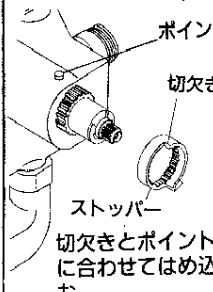
寒冷地用の場合は器具内の水を抜くため、水抜コックを設けております。凍結のおそれのある時期に施工された場合は、水抜栓の操作とあわせて付属の水抜方法ラベルの要領で水抜をしておいてください。またお客様にも水抜方法をご指導ください。

〈水抜手順〉

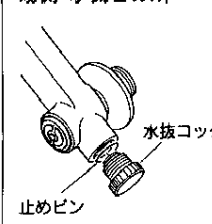
- (1) 設定ハンドルを目盛120以上まで回す。
- (2) 本体の水抜コックを全て開く。
- (3) 温度調節ハンドルを“H”に合わせ、スパウト及び水抜コックから水が出なくなってから、ハンドルを“C”側いっぱいまで回す。

分解と点検

取付後万一故障した際は、次の要領で分解および点検を行ってください。

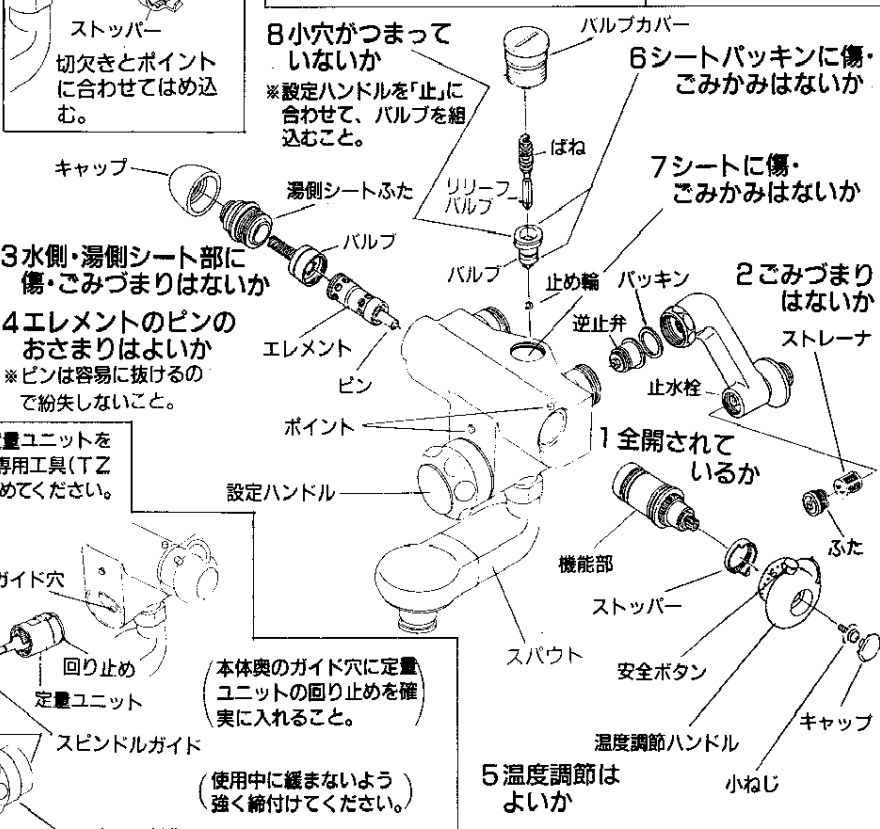
		現 象	点検項目
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>寒冷地用</p>  </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ストッパーの位置</p>  <p>切欠きとポイントに合わせてはめ込む。</p> </div>	吐水流量が少ない。	1・2
		高温しか出ない。	1・2・3・4・5
		低温しか出ない。	1・2・3・5
		ダイヤルどおりの湯が出ない。	1・2・3・4・5
		水が止まらない。	6・7・8

湯側・水側2カ所



3 水側・湯側シート部に傷・ごみづまりはないか

4 エLEMENTのピンのおさまりはよいか
※ピンは容易に抜けるので紛失しないこと。



8 小穴がつまっていないか
※設定ハンドルを「止」に合わせて、バルブを組込むこと。

6 シートパッキンに傷・ごみかみはないか

7 シートに傷・ごみかみはないか


2 ごみづまりはないか

1 全開されているか

5 温度調節はよいか

設定ハンドルをはずし、定量ユニットを取出す場合は、別売の締付専用工具(TZ8)でスピンドルガイドをゆるめてください。

別売



ストッパーA、Bの取付方法は、付属のご愛用のしおり(8ページ)をご覧ください。

(本体奥のガイド穴に定量ユニットの回り止めを確実に入れること。)

(使用中に緩まないよう強く締付けてください。)

注) カラー塗装品、パールホワイトめっき品の場合は表面が傷つきやすいので必ず付属の開閉工具をご使用ください。